

H30 課題読みの仕方

(健康づくりのためのスポーツ施設)

- ・課題読みは、要求事項の落ちが無いように、チェックしつつ素早く正しく読む(チェック例は下記参照)。
- ・そのためには、下記のマーカーで3回チェックする(最初から何色も使ってチェックすると確認しやすい)。

① 最初に赤ボールペンで1回で読み切る

- ・試験開始と同時に、「赤ボールペン」でチェックしつつ1回で読み切る(10分程度が目標)。
- ・受験者には、最初2回読みをする方もいるが、これは時間短縮から真剣に1回で読み切る癖をつけたほうが良い。

② エスキス終了後に黄色マーカーで2回目チェック

- ・エスキスが終了した段階で、「黄色マーカー」で2回目のチェックをする(試験時13:00頃)。
- ・ここで、課題の要求事項の落ちがないことを確実にチェックする。

③ 作図終了後に赤マーカーで3回目チェック

- ・作図が終了した段階で、作図を見ながら「赤マーカー」で3回目のチェックをする(試験時17:00頃)。
- ・黄色マーカーの上から赤マーカーをするので、確実に落ちがないことを確認できる。

① 最初に赤ボールペンで1回で読み切る

設計課題 健康づくりのためのスポーツ施設

1回目予選課題2018年8月13日確定 (建築資格研究会)

I. 設計課題

I. 設計課題

この課題は、ある地方都市の中心市街地において、健康づくりのためのスポーツ施設を計画するものである。この施設は、高齢者も含めた地域住民が、様々な運動を行うことにより、健康の維持・増進を図ることを目的とし計画する。また、計画に当たっては、環境負荷低減のため、自然エネルギーを利用し、快適な室内環境が得られるような設計計画(パッシブデザイン)を、積極的に取り入れるものとする。

1. 敷地及び周辺条件

- 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、下図のとおりである。
- 敷地は、平組で、道路及び隣地との高低差はないものとする。また、歩道の幅員等は、1箇所当たり6mまでであるものとする。
- 敷地は、近隣商業地域及び種防火地域に指定されている。また、建ぺい率の限度は80%、容積率の限度は400%である。
- 電気、ガス及び上下水道は、完備している。
- 地盤の状況は良好であり、杭打ちの必要はない。
- 気候は温暖で、地下水及び積雪についての特別な配慮はしなくてよい。



2. 建築物

- 構造・階数等
構造種別は自由とし、地上3階建ての1棟の建築物とする。
- 床面積の合計
床面積の合計は、2,800㎡以上、3,200㎡以下とする。この範囲の床面積の算定においては、ピロティ、専層、バルコニー、屋外階段等については床面積に算入しないものとする。
- 要求室
下表の室は、すべて計画する。

部門	室名	特記事項	床面積
運動活動部門	温水プール	・無柱空間とし、天井高が6m以上とする。 ・プールは、長さ20m、幅8m、奥行き1.2mとする。 ・監視室(カウンター、便所)を設ける。 ・採暖室(30㎡以上、ジグザグ)、器具庫を設ける。 ・温水プール及びトレーニングジム等が利用する。	約400㎡
	更衣室	・温水プールへ直接行き来できるものとする。 ・男性用、女性用として各約100㎡を設ける。 ・ロッカー、洗面所、シャワー、長靴入れを設ける。	約200㎡
	トレーニングジム	・各種運動器具を利用してトレーニングをする。 ・器具庫(約20㎡)を設ける。 ・屋外テラスを確保する。	約200㎡
	エアロビクススタジオ	・壁1面に鏡を設ける。	約80㎡
	ヨガスタジオ	・壁1面に鏡を設ける。	約80㎡
	健康測定室	・利用者の体力測定等をする。	適宜
	健康相談室	・利用者が健康等について相談する。	適宜
	視覚コーナー	・温水プールの視察するコーナーを設ける。	適宜
	スタッフコーナー	・受付カウンターを設ける。 ・2階、3階それぞれに設ける。	適宜
	休憩コーナー	・自販機、テーブル及び椅子を設ける。 ・2階、3階それぞれに設ける。 ・60密度程度の椅子を設ける。	適宜
共用部門	レストラン	・原形を設ける。 ・内部と外部の両方からアプローチできるようにする。 ・屋外テラスを確保する。	約300㎡
	会議室	・2室に分割できるものとする。 ・それぞれ約50㎡を設ける。	約100㎡
	スポーツショップ	・スポーツ関連商品を販売する。 ・内部と外部の両方からアプローチできるようにする。	適宜
	エントランスホール	・見通しを設ける。 ・組合わせラウンジ(約80㎡)を設ける。	適宜
管理部門	事務室	・5人分の事務スペースを確保する。 ・受付カウンターを設ける。	適宜
	倉庫	・適宜	適宜
	器具庫	・男女別に設ける。	適宜
	器具庫	・男女別に設ける。	適宜
	器具庫	・男女別に設ける。	適宜
	器具庫	・男女別に設ける。	適宜
設備スペース	設備スペース	・採用した設備計画に応じて、設備機械室(空調、給排水衛生、電気、消防等)、屋外設備機器等を計画する。	適宜
	設備スペース	・採用した設備計画に応じて、設備機械室(空調、給排水衛生、電気、消防等)、屋外設備機器等を計画する。	適宜

・便所及び倉庫については適明に計画する。
・その他必要と思われる室等は、適宜計画するものとする。

3. その他の施設等

- 多目的広場(50㎡以上、直径5mの内が入るもの)を地上に設ける。
- 屋外テラス(50㎡以上、アーチ型、格子)を地上に設ける。
- 駐車場は、車庫手前専用として1台分、オートスペースとして1台分を設ける。なお、利用者及び職員等の駐車場は、定員の公共駐車場を利用するものとし、考慮しなくてよい。
- 敷地内の駐輪場は、施設利用用途として10台分を設ける。
- この留意を設ける。
- (1)及び(6)の「その他の施設等」は、床面積に算入しないものとする。

4. 計画に当たっての留意事項

- 建築計画については、次の点に留意して計画する。
 - 敷地の周辺環境に配慮する。
 - 建築物はバリアフリー(特に特定建築物)、セキユリティに配慮する。
 - 各要求室を適切にゾーニングし、明快な動線計画とともに、遊憩等に配慮する。
 - 自然採光及び自然換気を積極的に取り入れる計画とし、日射の遮蔽に配慮する。
- 構造計画については、次の点に留意して計画する。
 - 建築物全体が、構造耐力上、安全であるように計画するとともに、経済性にも配慮する。
 - 構造種別、架構形式、スパン割りを適切に計画するとともに、適切な断面寸法とする。
- 設備計画については、次の点に留意して計画する。
 - 空調設備、給排水衛生設備、電気設備、消防設備等を適切に設けるとともに、環境負荷低減に配慮する。なお、温水プールの空調は単一ダクト方式とし、給水設備は受水槽方式とする。
 - エレベーターを適切に設ける。

II. 要求図書

答案用紙 I 及び答案用紙 II の定められた枠内(寸法線については除外可)に、黒鉛筆を用いて記入する。

1. 要求図書(答案用紙 I に記入)

下表により、所定の図面を作成し(フリーハンドでもよい)、必要な事項を記入する。なお、各図面には、計画に留意した事項について、簡潔な文章や矢印等により補足して明示してもよい。

図面及び縮尺	特記事項
(1) 1階平面図 縮尺 1/200	① 各階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の主要寸法(柱間及び床面積の計算に必要な程度) ロ. 高さ等 ハ. 基本面の表示 ニ. 設備計画【バリアフリー(PS)、ダクトスペース(DS)、電気シャワー(EIS)]の位置 ホ. 設備計画に応じた設備スペース ヘ. 断面図の切取位置
(2) 2階平面図 1/200	① 断面図の切取位置 ト. 要求室の特記事項に記載されている仕様等 チ. 延床のおそれのある部分の位置(一点線にて図示する)。 リ. 特定防火区画のある部分を図示する。
(3) 3階平面図 1/200	② 1階平面図と同様図面には、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の出入口 ロ. 敷地内の駐輪場、駐輪場 ハ. 多目的広場及び屋外テラスの面積 ニ. 遊憩、粗致等 ホ. 公園設備 ③ 2階平面図及び3階平面図には次のものを図示又は記入する。 イ. 下階の最上、最下となる部分 ロ. 居室の最上・最下となる部分 ハ. 居室の最上・最下となる部分 ニ. 居室の最上・最下となる部分 ホ. 居室の最上・最下となる部分
(4) 断面図 1/200	① 断面図には、温水プールを含み、建築物の全体の立体構成がわかる断面とする。 なお、水平方向、鉛直方向の省略は行わないものとする。 ② 断面図に建築物の高さ、階高、天井高、1階床高及び主要な断面を記入する。 ③ 基礎(一部省略してもよい)、陸及びスラブの断面を図示する。 ④ 地上に設備スペースを設けた場合は図示する。

2. 面積表(答案用紙 II に記入)

地上1〜3階の床面積及びその合計を記入する。なお、各階の床面積については、その算定式も記入する。

3. 計画の要旨等(答案用紙 II に記入)

- 要旨等について、次の①〜③の要旨等を具体的に記述する。なお、要求図書では表せない部分についても記述する。
 - 利用者及び職員等のアプローチ計画について考慮したこと
 - 温水プールと更衣室におけるバリアフリーについて考慮したこと
 - 採用したパッシブデザインについて特に考慮したことを3つ具体的に記述すること
- 構造計画について、次の①〜③の要旨等を具体的に記述する。なお、要求図書では表せない部分についても記述する。
 - 建築物に採用した構造種別、架構形式、スパン割りに関して考慮したこと
 - 屋内プールを無柱空間とするために構造計画で考慮したこと
 - 採用した基礎方式と、その選定理由について考慮したこと
- 設備計画について、次の①〜③の要旨等を具体的に記述する。なお、要求図書では表せない部分についても記述する。
 - 温水プールの空調方式と、その選定理由について考慮したこと
 - 給排水衛生設備(受水槽・ポンプ)、トイレ・貯留槽、遊憩用遊歩道の設置位置について考慮したこと、及びそれぞれの設備面積を記述すること
 - 空調設備、給排水衛生設備及び電気設備における省エネルギー手法をそれぞれ具体的に記述すること

② エスキス終了後に黄色マーカーで2回目チェック

1回目予測課題2018年8月13日確定 (建築資格研究会)

設計課題 健康づくりのためのスポーツ施設

I. 設計課題

I. 設計課題

この課題は、ある地方都市の中心市街地において、健康づくりのためのスポーツ施設を計画するものである。この施設は、高齢者も含めた地域住民が、様々な軽運動を行うことにより、健康の維持・増進を図ることを目的として計画する。また、計画に当たっては、環境負荷低減のため、自然エネルギーを利用し、快適な室内環境が得られるような設計手法(パッシブデザイン)を、積極的に取り入れるものとする。

1. 敷地及び周辺条件

- 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、下図のとおりである。
- 敷地は、平坦で、道路及び隣地との高低差はないものとする。また、歩道の切り開きは、1箇所当たり6mまでできるものとする。
- 敷地は、近隣商業地域及び準防火地域に指定されている。また、建ぺい率の限度は80%、容積率の限度は400%である。
- 電気、ガス及び上下水道は、完備している。
- 地盤の状況は良好であり、杭打ちの必要はない。
- 気候は温暖で、地下水及び積雪についての特別な配慮はしなくてよい。



2. 建築物

- 構造・階数等
構造種別は自由とし、地上3階建ての1棟の建築物とする。
- 床面積の合計
床面積の合計は、2,800㎡以上、3,200㎡以下とする。
この課題の床面積の算定においては、ピロティ、格屋、バルコニー、屋外階段等については床面積に算入しないものとする。
- 要求室
下表の室は、すべて計画する。

部門	室名	特記事項	床面積
軽運動部門	温水プール	無柱空間とし、天井高さ6m以上とする。 プールは、長さ20m、幅6m、最深1.2mとする。 監視員室(カウンター、便所)を設ける。 探照室(30㎡以上、ジャグジー)、器具庫を設ける。 温水プール及び外レーニングジム等が利用する。 温水プールへ直接行き来できるようにする。 男性用、女性用として各約100㎡を設ける。 ロッカー、洗面所、便所、シャワー、足洗いを設ける。	約400㎡
	更衣室	各種運動器具を利用してトレーニングをする。 器具庫(約20㎡)を設ける。	約200㎡
	トレーニングジム	壁1面に鏡を設ける。	約80㎡
	エアロビクススタジオ	壁1面に鏡を設ける。	約50㎡
	健康測定室	利用者の体力測定等をする。	適宜
	健康相談室	利用者が健康等について相談する。	適宜
	観覧コーナー	温水プールの観覧するコーナーを設ける。	適宜
	スタッフコーナー	受付カウンターを設ける。 2階、3階それぞれに設ける。	適宜
	休憩コーナー	自販機、テーブル及び椅子を設ける。 2階、3階それぞれに設ける。	適宜
	共用部門	レストラン	60席程度の椅子席を設ける。 厨房を設ける。 内部と外部の両方からアプローチできるようにする。 屋外テラスを隣接させる。
会議室		2室に分割できるようにする。 それぞれ約50㎡を設ける。	約100㎡
スポーツショップ		スポーツ関連商品を販売する。 内部と外部の両方からアプローチできるようにする。	適宜
エントランスホール		風除室を設ける。 待合スペース(約50㎡)を設ける。	適宜
管理部門	事務室	5人分の事務スペースを確保する。 受付カウンターを設ける。	適宜
	館長室		適宜
	応接室		適宜
	職員控室	男女別に設ける。	適宜
	指導員控室	男女別に設ける。	適宜
	休憩室	職員及び指導員が利用する。	適宜
	設備スペース	採用した設備計画に応じて、設備機械室(空調、給排水衛生、電気、消火等)、屋外機器置場等を計画する。	適宜

・便所及び倉庫については適切に計画する。
・その他必要と思われる室等は、適宜計画するものとする。

3. その他の施設等

- 多目的広場(50㎡以上、直径5mの円が入るもの)を地上に設ける。
- 屋外テラス(50㎡以上、テーブル、椅子)を地上に設ける。
- 駐車場は、車椅子利用者として1台分、自転車用として1台分を設ける。
なお、利用者及び職員等の駐車場は、近隣の公共駐車場を利用するものとし、考慮しなくてよい。
- 敷地内の駐輪場は、施設利用者として10台分を設ける。
- ゴミ置場を設ける。
- (1)及び(5)の「その他の施設等」は、床面積に算入しないものとする。

4. 計画に当たっての留意事項

- 建築計画については、次の点に留意して計画する。
 - 敷地の周辺環境に配慮する。
 - 建築物がバリアフリー(特別特定建築物)、セキュリティに配慮する。
 - 各要求室を適切にゾーニングし、明快な動線計画とするとともに、避難等に配慮する。
 - 自然採光及び自然通風を積極的に取り入れる計画とし、日射の遮蔽に配慮する。
- 構造計画については、次の点に留意して計画する。
 - 建築物全体が、構造耐力上、安全であるように計画するとともに、経済性にも配慮する。
 - 構造種別、架橋形式、スパン割りを適切に計画するとともに、適切な断面寸法とする。
- 設備計画については、次の点に留意して計画する。
 - 空調設備、給排水衛生設備、電気設備、消火設備等を適切に設けるとともに、環境負荷低減に配慮する。
なお、温水プールの空調は通一ダクト方式とし、給水設備は受水槽方式とする。
 - エレベーターを適切に設ける。

II. 要求図書

答案用紙Ⅰ及び答案用紙Ⅱの定められた枠内(寸法線については枠外でもよい。)に、黒鉛筆を用いて記入する。

1. 要求図面(答案用紙Ⅰに記入)

下表により、所定の図面を作成し(フリーハンドでもよい。)、必要な事項を記入する。
なお、各図面には、計画上留意した事項について、簡潔な文章や矢印等により補足して明示してもよい。

図面及び縮尺	特記事項
(1) 1階平面図 兼配置図 1/200	① 各階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の <u>主要寸法</u> (柱間及び床面積の計算に必要な程度) ロ. <u>室名</u> 等 ハ. 要求室の <u>床面積</u> ニ. 設備シャフト【パイプシャフト(PS)、ダクトスペース(DS)、電気シャフト(EPS)]の位置 ホ. 設備計画に応じた設備スペース ヘ. 断面図の <u>切断位置</u> ト. 要求室の特記事項に記載されている什器等 チ. <u>延床のおそれのある部分の位置(一点鎖線で図示する)</u> 。 リ. <u>特定防火設備のある部分の位置</u> を図示する。 ② 1階平面図兼配置図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の <u>出入口</u> ロ. 敷地内の <u>駐車場、駐輪場</u> ハ. <u>多目的広場及び屋外テラスの面積</u> ニ. <u>通路、植栽等</u> ホ. <u>ゴミ置場</u>
(2) 2階平面図 1/200	③ 2階平面図及び3階平面図には次のものを図示又は記入する。 イ. <u>下階の屋根、ひしき</u> 等となる部分 ロ. 居室の最も近い位置から2つの直通階段に至る歩行経路及び電燈区間の距離を記入する。
(3) 3階平面図 1/200	
(4) 断面図 1/200	① 断面位置は、 <u>温水プール</u> を含み、建築物の全体の立体構成がわかる断面とする。 なお、水平方向、鉛直方向の省略は行わないものとする。 ② 格屋を除く建築物の高さ、階高、天井高、1階床高及び <u>主要な室名</u> を記入する。 ③ <u>基礎</u> (一部省略してもよい)、 <u>梁</u> 及び <u>スラブ</u> の断面を図示する。 ④ <u>地上に設備スペース</u> を設けた場合は図示する。

2. 面積表(答案用紙Ⅰに記入)

地上1~3階の床面積及びその合計を記入する。なお、各階の床面積については、その算定式も記入する。

3. 計画の要点等(答案用紙Ⅱに記入)

- 建築計画について、次の①~③の要点等を具体的に記述する。
なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
 - 利用者及び職員等のアプローチ計画について考慮したこと
 - 温水プールと更衣室におけるバリアフリーについて考慮したこと
 - 採用したパッシブデザインについて特に考慮したことを3つ具体的に記述すること
- 構造計画について、次の①~③の要点等を具体的に記述する。
なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
 - 建築物に採用した構造種別、架橋形式、スパン割りについて考慮したこと
 - 屋内プールを無柱空間とするために構造計画で考慮したこと
 - 採用した基礎方式と、その選定理由について考慮したこと
- 設備計画について、次の①~③の要点等を具体的に記述する。
なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
 - 温水プールの空調方式と、その選定理由について考慮したこと
 - 給排水衛生設備(受水槽・ポンプ)、ボイラー・貯湯槽、循環ろ過ポンプの設置位置について考慮したこと、及びそれぞれの使用面積を記述すること
 - 空調設備、給排水衛生設備及び電気設備における省エネルギー手法をそれぞれ具体的に記述すること

③ 作図終了後に赤マーカーで3回目チェック

設計課題 健康づくりのためのスポーツ施設

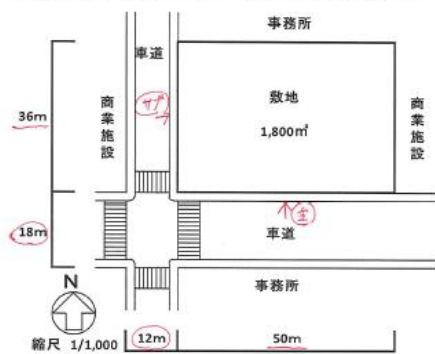
I. 設計課題

I. 設計課題

この課題は、ある地方都市の中心市街地において、健康づくりのためのスポーツ施設を計画するものである。この施設は、高齢者も含めた地域住民が、様々な軽運動を行うことにより、健康の維持・増進を図ることを目的として計画する。また、計画に当たっては、環境負荷低減のため、自然エネルギーを利用し、快適な室内環境が得られるような設計手法(パッシブデザイン)を、積極的に取り入れるものとする。

1. 敷地及び周辺条件

- 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、下図のとおりである。
- 敷地は、平坦で、道路及び隣地との高低差はないものとする。また、歩道の切り開きは、1箇所あたり6mまでできるものとする。
- 敷地は、近隣商業地域及び準防火地域に指定されている。また、建ぺい率の限度は80%、容積率の限度は400%である。
- 電気、ガス及び上下水道は、完備している。
- 地盤の状況は良好であり、杭打ちの必要はない。
- 気候は温暖で、地下水及び積雪についての特別の配慮はしなくてよい。



2. 建築物

- 構造・階数等
構造種別は自由とし、地上3階建ての1棟の建築物とする。
- 床面積の合計
床面積の合計は、2,800㎡以上、3,200㎡以下とする。
この課題の床面積の算定においては、ピロティ、階屋、バルコニー、屋外階段等については床面積に算入しないものとする。
- 要求室
下表の室は、すべて計画する。

部門	室名	特記事項	床面積
*軽運動部門は、 足元 又は上階で利用する計画とする。			
軽運動部門	風水プール	無柱空間とし、天井高さ6m以上とする。 ・プールは、長さ30m、幅8m、最深1.2mとする。 ・監視員室(カウンタ、便所)を設ける。 ・換気室(30㎡以上、シャワージム)器具庫を設ける。	約400㎡
	更衣室	・風水プール及びトレーニングジム等が利用する。 ・風水プールへ直接行き来できるようにする。 ・男性用、女性用として各約100㎡を設ける。 ・ロッカー、洗面所、便所、シャワー、足洗いを設ける。	約200㎡
	トレーニングジム	・各種運動器具を利用してトレーニングをする。 ・器具庫(約20㎡)を設ける。	約200㎡
	エアロビクススタジオ	・壁1面に鏡を設ける。	約80㎡
	ヨガスタジオ	・壁1面に鏡を設ける。	約50㎡
	健康測定室	・利用者の体力測定等をする。	適宜
	健康相談室	・利用者が健康等について相談する。	適宜
	視察コーナー	・風水プールの視察するコーナーを設ける。	適宜
	スタッフコーナー	・受付カウンターを設ける。 ・2階、3階それぞれに設ける。	適宜
	休憩コーナー	・自販機、テーブル及び椅子を設ける。 ・2階、3階それぞれに設ける。 ・60席程度の椅子席を設ける。 ・戸閉を設ける。	約300㎡
共用部門	レストラン	・内部と外部の両方からアプローチできるようにする。 ・屋外テラスを併設させる。	約100㎡
	会議室	・2室に分割できるようにする。 ・それぞれ約50㎡を設ける。	約100㎡
	スポーツショップ	・スポーツ関連商品を販売する。	適宜
	コンランスホール	・内部と外部の両方からアプローチできるようにする。 ・換気室を設ける。	適宜
管理部門	事務室	・5人分の事務スペースを確保する。 ・受付カウンターを設ける。	適宜
	部長室	適宜	
	広設室	適宜	
	職員控室	・男女別に設ける。	適宜
	指導員控室	・男女別に設ける。	適宜
	休憩室	・職員及び指導員が利用する。	適宜
設備スペース	・採用した設備計画に応じて、設備機械室(空調、給排水衛生、電気、消火等)、屋外機器置場等を計画する。	適宜	
*便所及び倉庫については適切に計画する。 *その他必要と思われる室等は、適宜計画するものとする。			

3. その他の施設等

- 多目的広場(50㎡以上、直径5mの円が入るもの)を地上に設ける。
- 屋外テラス(50㎡以上、テーブル、椅子)を地上に設ける。
- 駐車場は、自転車利用者用として1台分、サービス用として1台分を設ける。
なお、利用者及び職員等の駐車場は、近隣の公共駐車場を利用するものとし、考慮しなくてよい。
- 敷地内の駐輪場は、施設利用者用として10台分を設ける。
- こみ置場を設ける。
- (1)及び(5)の「その他の施設等」は、床面積に算入しないものとする。

4. 計画に当たっての留意事項

- 建築計画については、次の点に留意して計画する。
 - 敷地の周辺環境に配慮する。
 - 建築物はバリアフリー(特別特定建築物)、セキュリティに配慮する。
 - 各要求室を適切にゾーニングし、明快な動線計画とともに、避難等に配慮する。
 - 自然採光及び自然通風を積極的に取り入れる計画とし、日射の遮蔽に配慮する。
- 構造計画については、次の点に留意して計画する。
 - 建築物全体が、構造耐力上、安全であるように計画するとともに、経済性にも配慮する。
 - 構造種別、梁橋形式、スパン割りを適切に計画するとともに、適切な断面寸法とする。
- 設備計画については、次の点に留意して計画する。
 - 空調設備、給排水衛生設備、電気設備、消火設備等を適切に設けるとともに、環境負荷低減に配慮する。
なお、温水プールの空調は**単一ダクト方式**とし、給水設備は**受水槽方式**とする。
 - エレベーターを適切に設ける。

II. 要求図書

答案用紙Ⅰ及び答案用紙Ⅱの定められた枠内(寸法線については枠外でもよい。)に、黒鉛筆を用いて記入する。

1. 要求図面(答案用紙Ⅰに記入)

下表より、所定の図面を作成し(フリーハンドでもよい。)、必要な事項を記入する。なお、各図面には、計画上留意した事項について、簡潔な文章や矢印等により補足して明示してもよい。

図面及び縮尺	特記事項
(1)1階平面図 兼配設図 1/200	① 各階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の 主要寸法 (柱割り及び床面積の計算に必要な程度) ロ. 室名 等 ハ. 要求室の 床面積
(2)2階平面図 1/200	ニ. 設備シャフト【パイプシャフト(PS)、ダクトスペース(DS)、電気シャフト(EPS)】の位置 ホ. 設備計画に応じた設備スペース
(3)3階平面図 1/200	ヘ. 断面図の 切取位置 ト. 要求室の特記事項に記載されている什器等 チ. 足元 のおそれのある部分の位置(▼点線図で図示する)。 リ. 特定防火設備 のある部分を図示する。
(4)断面図 1/200	② 1階平面図兼配設図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の 出入口 ロ. 敷地内の 駐車場、駐輪場 ハ. 多目的広場及び屋外テラスの面積 ニ. 通路、植栽等 ホ. こみ置場 ③ 2階平面図及び3階平面図には次のものを図示又は記入する。 イ. 下階の屋根、ひしき 等となる部分 ロ. 居室の最も高い位置から2つの直連階段に至る 歩行経路 及び 重複区間の距離 を記入する。
(4)断面図 1/200	① 断面位置は、 風水プール を含み、建築物の全体の立体構成がわかる断面とする。 なお、水平方向、鉛直方向の省略は行わないものとする。 ② 階壁を除く建築物の 高さ、階高、天井高、1階床高 及び 主要な室名 を記入する。 ③ 基礎 (一部省略してもよい)、 壁及びスラブ の断面を図示する。 ④ 屋上に設備スペース を設けた場合は図示する。

2. 面積表(答案用紙Ⅰに記入)

地上1~3階の床面積及びその合計を記入する。なお、各階の床面積については、その算定式も記入する。

3. 計画の要点等(答案用紙Ⅱに記入)

- 建築計画について、次の①~③の要点等を具体的に記述する。
なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
 - 利用者**と**職員**等の**アプローチ計画**について考慮したこと
 - 風水プール**と**更衣室**における**バリアフリー**について考慮したこと
 - 採用した**パッシブデザイン**について特に考慮したことを**含む具体的に**記述する
- 構造計画について、次の①~③の要点等を具体的に記述する。
なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
 - 建築物に採用した**構造種別、梁橋形式、スパン割り**について考慮したこと
 - 風水プール**を**無柱空間**とするために**構造計画**で考慮したこと
 - 採用した**基礎方式**と、その**選定理由**について考慮したこと
- 設備計画について、次の①~③の要点等を具体的に記述する。
なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
 - 風水プールの空調方式**と、その**選定理由**について考慮したこと
 - 給排水衛生設備(受水槽・ポンプ、ボイラー・貯湯槽、循環湯ポンプ)**の**設置位置**について考慮したこと、及びそれぞれの**使用面積**を記述する
 - 空調設備、給排水衛生設備及び電気設備**における**自然エネルギー手法**をそれぞれ具体的に記述する